

CASBEE® 名古屋

■使用評価マニュアル: CASBEE-運用評価(2019年版) 名古屋大学建築環境施設運用マニュアル2019

使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

評価結果

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	金城学院大学 看護学部	階数	地上5F
建設地	名古屋市守山区大森二丁目1720-1,1720-2,1723,1705-1,1705-2,1713-1,1713-2,1713-3,1722-1,1722-2,1725-1,1728-1,1727	構造	RC造
用途地域	第一種住居地域(過半)、第二種住居地域 防火地域	平均居住人員	928 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,960 時間/年(想定値)
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2022年3月 予定	評価の実施日	2022年12月11日
敷地面積	122,875 m ²	作成者	
建築面積	1,613 m ²	確認日	2022年12月19日
延床面積	4,812 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
= BEE1.9 ★:S:★★★★★ A:★★★★★ B:★★★★ B:★★★ C	☆☆☆ 100%超 ☆☆☆ 100% ☆☆☆ 80% ☆☆☆ 60% ☆☆☆ 30% 標準計算 このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです	

2-4 中項目の評価(バーチャート)
Q 環境品質 Q1 室内環境 Q1のスコア= 3.5 Q2 サービス性能 Q2のスコア= 3.3 Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア= 3.1 LR 環境負荷低減性 LR1 エネルギー LR1のスコア= 4.2 LR2 資源・マテリアル LR2のスコア= 3.6 LR3 敷地外環境 LR3のスコア= 3.4

3 設計上の配慮事項		その他
総合		
広大な大学キャンパス敷地内における複数棟ある教育施設の内、看護棟増築計画であり、敷地内においては、地盤高低差を利用しながら緑を積極的に取り入れ、隣棟間を大きく取ることで圧迫感を与えないよう地域（場内）環境に配慮している。遮音、騒音環境に配慮し、高い機能性や耐用性・信頼性、対応性・更新性を備えることで、優れた学びの場としての教育環境を長期に維持・利用できる建物として計画している。		
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境（敷地内）
音環境では遮音、吸音性能共に高水準を確保し、また空気質環境の取り組みとして館内全体を禁煙とし、教育環境としての居心地の良さについて配慮した設計としている。	内装仕上げ材には、耐用年数の長い部材を使用し、将来計画への対応性・更新性としては、いずれの設備の更新性もほとんど仕上げ材を痛めることなく済むよう配慮している。	場内には地盤高低差を利用しながら緑を積極的に取り入れ、建物形状や色彩においては、周辺のまちなみや風景にバランスよく調和させ、地域環境に配慮した計画としている。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
建物外皮への熱負荷抑制や設備システムの効率化において高い水準を確保している。	非再生資源の使用量削減として部材の再利用可能性向上に取り組んでおり、環境への配慮としては、ノンフロンかつ地球温暖化係数の低い発泡断熱材を使用している。	交通負荷抑制として適切な量の駐車スペースを場内に分割して配置し、学生用駐車場と教職員用駐車場を明確に区別し入場動線に配慮している。廃棄物の処理負荷抑制も十分に行うことで、敷地外への影響を極力少なくするよう努めている。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修・解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

金城学院大学 看護学部

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル:

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.9
LR1	エネルギー	4.2	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.9	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	2.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.6
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.7	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

結果

1. 温暖化対策

評価点 = 3.9



2. 自然共生

評価点 = 2.3



3. 循環型社会

評価点 = 3.6



重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。